

令和6年4月15日

いちき串木野市長 中屋 謙治 殿

いちき串木野市2040年のまちを考える会  
会長 湯 永 朋 弘

## 2040年のまちづくりに向けたDX推進などに関する意見書

2040年のまちづくりを見据え、今後実施すべき、DX推進や第2期いちき串木野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下、「総合戦略」という。）に関する施策について、令和5年8月から令和6年3月までの議論・検討の結果、下記のとおりまとめたので、意見書を提出する。

### 記

#### 1 DX推進に関する提案

- (1) 観光商材簡素化プラン～ムダを省いて外貨を稼ぎ潤うプラン～  
観光地や特産品をマップ上で可視化するアプリの開発
- (2) 公共施設無人化計画  
公共施設予約のオンライン化
- (3) 人もくるくるお金もぐるぐる  
市民同士が自車で助け合う公共交通補完システムの開発
- (4) 子育てDXプラン  
子どもの健診等の記録のデータベース化と情報共有化

#### 2 総合戦略に関する提案

- (1) 子育て支援策の拡充
  - ① 保育士等の処遇改善
  - ② 妊産婦健診の支援
  - ③ 父子料理教室など父親の家事育児参画促進
  - ④ イクボス宣言及びかごしま子育て応援企業登録の推進
- (2) 学校教育における実践的な英語を使う機会の拡大

#### 3 理由

当会は、当局の提出資料を基にDXや総合戦略に関する施策を確認し、市民や企業が置かれている状況を踏まえ、幅広く検討を行った。

まず、「1(1)観光商材簡素化プラン～ムダを省いて外貨を稼ぎ潤うプラン～」については、本市における観光、飲食店等の情報は、紙媒体のパンフレットが数多く存在している。必要とするパンフレットを探すために時間を要する、情報が古い、パンフレットだけでは店舗等の場所が分かりにくい等の課題があることから、DXにより解消するためのものである。

次に「1(2)公共施設無人化計画」については、現在、公共施設の予約等の手続きは、電話又は対面で行う必要がある。便利さに欠ける状況にあり、公共施設の予約手続きをオンライン化する

ことにより、不便さを解消するためのものである。

次に「1(3)人もくるくるお金もぐるぐる」については、本市の人口減少と高齢化を踏まえ、市民同士が自車にて助け合える環境を作ることにより、既存の公共交通だけでは補いきれない、交通弱者や不便さを解消するためのものである。

次に「1(4)子育てDXプラン」については、出生から小学校入学までは健診などの書類が多く、書類の紛失や、手続きの漏れが起りやすい状況にある。子どもに関する情報を全てデジタル化し、一元管理した上で必要な機関と共有することにより、子育て期間における情報伝達の漏れや、各段階での手間やムダを省き、子育てしやすい環境を提供するためのものである。

次に、「2(1)子育て支援策の拡充」については、人口の自然減と社会減を止めるためには、個人・企業、男性・女性といった区分に関わらず良好な子育て環境が必要である。具体的には、子育て環境の中で重要な役割を担う保育士等の処遇改善や、妊産婦健診の交通費助成等の支援のほか、男性の育児参加の推進等により、子育てしやすい環境の整備を進めるためのものである。

最後に、「2(2)学校教育における実践的な英語を使う機会の拡大」について、学校教育の中で学ぶ英語は、ネイティブの英語に触れる機会が少なく、話し言葉として実際に社会で使えるものではなかった。学校教育における英語学習の課題に向き合い、児童生徒が今後のグローバル社会に対しての意識を構築させ対応出来る力を養うため、実践的な英語を使う機会を拡大するためのものである。

#### いちき串木野市 2040 年のまちを考える会

会長 潟永 朋弘  
副会長 高原 加奈子  
委員 井之原 翔吾  
〃 岩下 市蔵  
〃 岩村 慎一  
〃 白木 結子  
〃 大久保 匡敏  
〃 小林 礼奈  
〃 白石 仁美  
〃 須納瀬 武典  
〃 中原 広司  
〃 西蘭 修一  
〃 羽根田 正  
〃 浜田 笑瑠  
〃 平石 義和  
〃 山田 優子  
(委員五十音順)